



学校だより 冬休み月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakawada/>



感じる つくる 生きる・・・

感性豊かに生きる力を育む日々の創造

校長 瀧澤 優子

12月にはいり、とても寒い日が続いております。インフルエンザによる学級閉鎖もある中、二週に渡っての個人面談にいらしていただきありがとうございました。短い時間ではありますが、様々に中身の濃かったこれまでの9か月を振り返りながら、お子様の成長について話すこの機会は、大切なひと時と考えます。この4月、子ども達は縁あって、担任や友と出会い、新たな意欲に胸膨らませ、スタートしました。どんな先生だろう。友達と仲良くなれるかな。勉強はわかるかな。むずかしかな。と担任を含め皆に、年度当初ならではのよき緊張感がありました。みんなよりよくありたいと生きる存在として、日々を過ごしてきました。出会う、もの・事・人に多くを学びました。そして、今・・・学校と家庭がしっかりと手を取り、成果と課題を確認し合い、よさを確実に伸ばしていけるように。課題は具体的にどう改善していくか。を明確にし、時に厳しくも温かく寄り添い、自分らしさを発揮して歩む一歩一歩を見守りたいと心から思います。また、個人面談を通しての振り返りの一つひとつは、指導者としての教師の指導(指導力)の振り返りとなり、教師自身が謙虚に学ぶよき機会ととらえます。日々、目の前を待たなしで生きる子ども・・・「みんな ちがって みんな いい」と子どもを育み続けるには、人の「愛」に優るものはない。これからの世の中がどんなに目まぐるしく変化しても、どんどん進化をとげ、AIなる素晴らしいものにあふれても、「人」「心」「愛」には敵わないと思っています。10～20年後には、今の職業の半分は、無くなるといわれています。そう思うと、教師という仕事を改めて考えてしまいます。教師自らが、これから生き抜く子どもを育むために、日々、感性豊かに形あるものも形ないものもつくり出しながら、「心」ある生き方をすることが必須なのだと思います。子どものちょっとした変化に気付く感性、その心の内をノックできる人間力! どうしたら子どもの力で乗り越えられるかを伝えられる指導力! 確かな学力を育む授業力! 等々・・・年齢を問わず、日々己を磨き続ける大切さを、

身にしみて感じます。様々を気付かせてくれる個人面談へのご協力に感謝い

たします。私も共有すべきを共有してまいります。本当にありがとうございました。

また、オープンスクールへのアンケートや学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。今年度より、アンケートの内容やアンケートのとり方を変えました。わかりづらさ等あったのではないかとと思いますが、ご協力に感謝いたします。今年度、特に学校評価アンケートにつきましては、児童・保護者・職員への設問内容をできるだけ、そろえるようにいたしました。ある程度設問を揃えることで、それぞれの意識や思いのずれ等とともに一致することの把握ができ、具体的にどう改善していくかが、明確になるように思います。皆様の様々な思いを知り、受け止め、力及ばずともよりよさを求めてまいります。

来年も【感じる つくる 生きる】で邁進したいです。よいお年をお迎えください。

ラグビー元日本代表キャプテン 廣瀬 俊朗様 中和田小訪問

12月12日木曜日、横浜市民局 ラグビーワールドカップ2019推進課の事業の一つとしての「ラグビー選手の学校訪問」が中和田小で実現しました。

講師としていらした廣瀬さんは、皆さんよくご存じの通り、今や新聞・雑誌・TVと幅広く活躍されている方です。

廣瀬さんによる3～6年生への45分間のご講演と3年生への90分の実技指導、3年生との給食交流がありました。廣瀬さんをはじめ、この事業に関わる方々も大勢来校されました。

ご講演をはじめ、休憩中の会話、手伝ってくださるスタッフへの言葉かけや所作、周りを見抜く温かくも鋭い瞳等々・・・人間的魅力に満ちた素晴らしい人柄を強く感じました。

やはり、元日本代表の主将を務めた人間力・オーラは人を引き付けます。

ご講演中には、子ども達にどんどん語りかけ、中和田の子ども達の素直さを引きだし、一瞬にして廣瀬ワールドになりました。

今のラグビーブーム（強くなった）の要因は...

- ① 仲間・友達を大切にすること
- ② 「夢」があったこと
憧れの存在になりたかった
- ③ 目標に向かって、めっちゃ頑張ること
日々の小さな積み重ね
- ④ 感謝すること

いまの生活は当たり前じゃない。人にも事にも物にも感謝する心
真に強い人でありたい・・・子どもの心に届いたことでしょう。



中和田小学校 へ

2019.12.12